

## 8月16日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①クルスク攻撃は無能な計画(2024年8月13日)

ウクライナ軍によるクルスク地方への攻撃は、キエフと NATO による「無脳な計画」である、と元 CIA アナリストのラリー・ジョンソンは語った。

この専門家は、過去 10 年間、ウクライナ軍は民間人を攻撃してきたが、クルスク地方でも同じことをしていると強調した。

元 CIA アナリストは、ウクライナの指導者たち、特にヴォロディミル・ゼレンスキーの “不十分さ” によってキエフに危機が生じたと指摘した。

<https://x.com/i/status/1823279868739465330>



[https://x.com/ivan\\_8848/status/1823279868739465330?s=09](https://x.com/ivan_8848/status/1823279868739465330?s=09)

### ②ゼレンスキーは《最悪の選択》をした—ロシア越境攻撃を仕掛けたウクライナが、「アメリカ・フランスに見放される」運命にある理由(2024年8月14日)

8月6日から、ウクライナはロシアに対して越境攻撃を開始した。その狙いはどこにあるのか。また、なぜ今の時期の攻撃なのか。ゼレンスキー大統領の真の狙いがよく分からない。

F16 戦闘機を入手したとはいえ、年末までの供与数は約 20 機と、その数も少なく、ウクライナのパイロットの習熟度も十分ではないし、整備スタッフも足りない。直ぐに戦局を好転できる手段とはなりえない。

8月10日、ゼレンスキーは、国境を接するロシア西部のクルスク州でウクライナ軍が越境攻撃を行っていることを認め、「戦線を侵略者の領内に押し込んでいる」と主張した。

ウクライナ軍は、国境から 10km 先まで進軍し、スジャに迫っているという。約 1 万人の部隊が、戦車 11 台と装甲戦闘車両 20 台以上で進軍しているという。ウクライナ側の発表によれば、これまでに、1000km 平方メートルのロシア領土を占領したという。

ゼレンスキーによると、この越境攻撃は、領土奪還のためにロシアに圧力をかけることが目的だという。これまでは、ロシア領内では欧米から供与された武器は使用しないことになっていたが、今回は欧米側もそのような制限は設けていないという。

ロシアは反撃体制を整えつつあり、激しい戦闘が続いている。この事態に対して、国境地帯(クルスク州、ベルゴロド州、ブリャンスク州)から 12 万人ものロシア人住民が避難している。

ウクライナ軍は、ガスプロム社が保有するスジャの北西郊外にある天然ガスパイプライン施設を制圧したという。この施設は、ロシアからウクライナを經由して EU 諸国へ天然ガスを輸送するパイプラインの拠点である。

さらに、ウクライナ軍は、ロシアで最大級のクルスク原子力発電所にも迫りつつあり、不測の事態が懸念されている。クルスク原発はスジャから 60km の地点にある。IAEA(国際原子力機関)は、ウクライナとロシアの双方に対して自制を呼びかけている。

ウクライナは、ロシアが自国南部のザポロジエ原発を占拠していることを非難しており、それへの対抗措置としてクルスク原発まで進軍するのかどうかは不明である。

ロシアによれば、これまでのウクライナによる攻撃で、クルスク州では 3 人が死亡し、121 人が負傷したという。ロシアは、10 日、クルスク州上空で無人機 26 機を撃墜したと発表した。

### ホワイトハウスも関与せず

今回のウクライナの越境攻撃は、まさに奇襲であり、アメリカも関与していなかった。過去にも、2023 年 5 月と 2024 年 3 月に、ロシアの反プーチン武装勢力によるベルゴロド州への越境攻撃はあったが、今回は約 1 万人規模の正規軍による攻撃である。

ウクライナの目的は、ロシア軍の攻勢を減速させることであり、軍の配備を再調整させるコストを払わせることである。ロシアは、ハルキウ州北部に展開している部隊を急遽移動させているという。

プーチン大統領は、ロシア領内からウクライナ軍を撃退するように命令した。

問題は、今回の奇襲攻撃が戦局を大きく転換させ、ウクライナの勝利・ロシアの敗北につながるかどうかということである。

ロシアは、石油・天然ガス、食料など豊富な資源を有するとともに、核兵器を保有している。プーチン政権が内部から崩壊する兆しもない。同盟国ベラルーシもウクライナ牽制の手を休めてはいない。

ウクライナ国内には厭戦気分が高まりつつある。「停戦実現のためには領土割譲もやむなし」という意見の人は、開戦当初は国民の 1 割しかいなかったが、最近では 3 割以上に増えている。

トランプは、11 月の米大統領選挙で勝利すれば即座に停戦を実現させると豪語している。今のところ、有権者の支持は、カマラ・ハリスと拮抗しているが、トランプが大統領に再選される可能性はあり、その場合に備えて、ウクライナも停戦の準備をしておかなければならない。対露交渉を少しでも有利に進めるための手段として、ロシア領の占領を実行した可能性はある。

### 原油供給を妨害

さらに、ウクライナは自らの立場を強化するために、ロシアの石油大手のルクオイルを制裁対象にして、原油の供給を停止した。

このロシア原油は、ロシア南西部からベラルーシに伸びるパイプライン「ドルージュバ」によって EU 諸国に供給されている。ドルージュバは、ベラルーシで枝分かかれし、北ルートはポーランド、ドイツへ、南ルートはウクライナを經由してハンガリー、スロバキア、チェコへ原油を供給している。

ウクライナは南ルートの供給を停止することによって、ロシアに経済的打撃を与えると共に、ウクライナ支援に消極的なハンガリーやスロバキアを牽制することを狙っている。

ハンガリーのオルバン首相はロシア寄りの姿勢を一貫して示しており、7 月に EU 議長国となって

も、その方針を変えていない。また、スロバキアでは、昨年 9 月 30 日の総選挙でウクライナへの武器支援に反対する政党が勝ち、政権に就いている。この両国はウクライナへの反発を強めているが、今後の展開には注意が必要である。

### アフリカ・サハルの政情不安

アフリカ大陸の北部サハラ砂漠の南で、半乾燥地域のことをサヘルというが、そこにはセネガル、モーリタニア、マリ、ブルキナファソ、ニジェール、ナイジェリア、チャド、スーダン、南スーダン、エリトリアという国々がある。

多くの国がフランスの植民地であったが、私はパリ大学で勉強し、フランス語に不自由しないので、セネガルやコートジボワールの大学で授業をしたこともあり、馴染みのある地域である。

今、このサヘルで旧宗主国のフランスやアメリカに代わって、ロシアがプレゼンスを高めている。

この地域では、国際テロ組織のアルカイダや過激派組織「イスラム国(IS)」などが活動しており、新型コロナウイルス流行で職を失った若者をリクルートして、勢力を拡大してきた。そのために治安が悪化し、国民の不満が高まったが、民主派政権は過激派テロ組織の鎮圧に失敗し、統治能力の欠如を示した。そこで、軍部がクーデターを起こしたのである。

マリでは 2020 年 8 月に軍部が反乱し、民主的に選ばれたケイタ大統領を追放し、ゴイタ大佐が 2021 年 5 月に大統領に就任した。ブルキナファソでは、2022 年 1 月に軍事クーデターでカボレ大統領が失脚した。ニジェールでは、2023 年 7 月、軍部がクーデターを起こした。首謀者のアブドゥハーマン・チアニ大統領警護隊長は、親欧米派のモハメド・バズム大統領を追放し、憲法を停止し、自ら国のトップに就任した。

これらの軍事クーデターの背後には、ワグネルを軍事政権の傭兵として活動させるロシアの存在がある。ニジェールはウランの有数な産出国であり、EU のウラン輸入の約 24% を占める最大の供給国である。また、マリもブルキナファソも金を産出するなど、資源に恵まれている。ロシアは、その資源も自由に入手する。

これらの国々では、旧宗主国のフランスへの反感が強く、駐留フランス軍の安全が確保できなくなった。そこで、マクロン大統領は、ニジェールから約 1500 人の仏軍を昨年 12 月に撤退させた。今年の 4 月には、約 1000 人の米軍も全てニジェールから撤退した。米仏に代わってロシアが居座っているのである。

### ゼレンスキーとスウェーデンの愚策

そのロシアと戦っているのがウクライナである。ウクライナにとっては、ロシアが支援し、ウクライナ戦争ではロシアを支持するマリやニジェールなどの軍事政権も敵である。そこで、**サハルの軍事政権の敵である IS やアルカイダにウクライナは支援の手を差し伸べたのである。**

**これは最悪の選択である。**アルカイダによる 2001 年 9 月 11 日の同時多発テロで多くの犠牲者を出したアメリカ、そして IS のテロで治安が悪化しているフランスなどの西側諸国が、それを許すはずがない。そのことに考えが及ばないのが、ゼレンスキーの無能なところである。

7 月に、マリでロシアの傭兵部隊が反政府勢力の攻撃を受け、多数の死傷者が出たが、ウクライナが反政府勢力に情報提供するなどの支援を行ったとして、マリはウクライナと断交した。これは論理的には間違っていない。

ところが、スウェーデンの国際開発担当大臣が、8 月 7 日に「ロシアのウクライナ侵略を支持しなが

ら、我々から援助を受け取るな」とXに投稿したため、マリは、8月9日、駐在スウェーデン大使に72時間以内にマリから退去することを求めた。

スウェーデン政府の大臣の投稿は愚策である。ウクライナ支援で西側がまとまるためには、国際テロ組織のISやアルカイダなど絶対に支持してはならず、テロリストと戦っているサヘル諸国と争うべきではない。ゼレンスキー政権の間違ったアフリカ政策こそ糾弾すべきなのである。

アメリカやフランスは、ゼレンスキーに裏切られたという感を強めている。貧すれば鈍す……何にでも飛びつくゼレンスキーからは、勝利は遠ざかっている。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e2346cc5e7996ce16b44c230a716f6df66420f58?page=4>

### ③ウクライナ東部を破壊しているのはウクライナ軍(2023年8月)

<https://youtu.be/N1gqnMQKOn8>



<https://www.youtube.com/watch?v=N1gqnMQKOn8>

### ④米国はゼレンスキーの代わりを探している = 対外情報庁(2024年8月13日)

露対外情報庁は13日、米国のエリートらの中ではウクライナのゼレンスキー大統領への不満が拡大しており、代わりとなる人物を探しているとの分析を示した。

同庁は米国政府がウクライナのトップを、より管理しやすく腐敗の少ない、西側の同盟国の大多数にとって都合の良い人物に置き換える選択肢を模索していると指摘。西側諸国がロシアの交渉に向けてより適切な準備を進めるためだとしている。

同庁によれば、アルセン・アバコウ元内務相が有力候補にあがっているという。



<https://sputniknews.jp/20240813/18958766.html>

## ⑤クルスク州に侵入したウクライナ軍の掃討作戦・続編(2024年8月13日)

ロシア軍はクルスク州に侵入したウクライナ軍の掃討作戦を継続している。以下、ロシア国防省が公開した映像。

<https://x.com/i/status/1823208216018518097>

- ウクライナ軍の精鋭部隊、第80空挺強襲旅団に所属する5人が投降。司令官はテロ行為への関与によりロシアで起訴される(video1)
- ウクライナ軍のレーダーを「ランセット」で破壊(video2)
- ウクライナ軍の戦車を「ランセット」で破壊、爆発を引き起こす
- ウクライナ軍の多連装ミサイルシステムを「ランセット」で破壊



<https://x.com/i/status/1822630307670978767>



[https://x.com/sputnik\\_jp/status/1823208216018518097?ref\\_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Ctwterm%5E1823208216018518097%7Ctwgr%5Eba714823b80cc7869c847bfde25b2f58c7c5f146%7Ctwcon%5Es1 &ref\\_url=https%3A%2F%2Fsputniknews.jp%2F20240813%2F18958766.html](https://x.com/sputnik_jp/status/1823208216018518097?ref_src=twsrc%5Etfw%7Ctwcamp%5Etweetembed%7Ctwterm%5E1823208216018518097%7Ctwgr%5Eba714823b80cc7869c847bfde25b2f58c7c5f146%7Ctwcon%5Es1&ref_url=https%3A%2F%2Fsputniknews.jp%2F20240813%2F18958766.html)

## ⑥ ウクライナのクルスク侵攻に関する記事を翻訳しました(2024年8月14日)

「ロシアは本当にクルスクで敗北しているのか？」

Drago Bosnic:独立系地政学・軍事アナリスト

先週から、クルスク州における状況に関して、ロシア支持者の間で多くの懸念が生じています。特に、主流メディアのプロパガンダにさらされている読者からは、ロシアが「危機に瀕している」という報道を見て、数多くの質問が寄せられました。そのような懸念は、一方的な情報にしか接していない場合、十分に理解できるものです。「ビッグテック」や、西側諸国のメディアがそうした偏った情報提供を目的

としているのは明白です。

さらに、米国や欧州連合、その他の反ロシア的な国々の高官たちは、ロシアが「敗北している」とされる状況に満足している様子が見受けられます。

しかし、ここで重要なのは、ロシアが本当に「敗北」しているのかという点です。

まず、全体の戦線を俯瞰し、現実の状況を見極めることが必要です。それに基づいて結論を下すべきです。果たして、何か決定的な事態が起きているのでしょうか？ キエフ政権がクルスク原子力発電所を掌握し、モスクワを不利な「和平協定」に追い込む事態になるのでしょうか？ クレムリンが領土を譲渡し、事態を收拾することになるのでしょうか？ こうした憶測が飛び交っていますが、ロシア国内でも同様の不安が広がり、プーチン大統領は、いかなる譲歩も行われないうこと、そして特別軍事作戦(SMO)の全ての目標が達成されることを再確認しました。それにもかかわらず、心配する人々が後を絶ちません。

次に、クルスク州での作戦について触れると、ネオナチ政権と NATO がこの地域で計画した作戦は非常に巧妙に行われ、多くの要素が精密に調整されていたことが明らかです。

これは、キエフ政権が昨年の反攻作戦の教訓を学び、次回の作戦を公然と予告せず、敵に準備時間を与えないという合理的な戦略を採用したことを示しています。この点で、クルスク州侵攻の準備はほぼ完璧であり、メディアでも事前に情報が漏れることはありませんでした。OSINT(オープンソースインテリジェンス)さえもこの作戦を予測できなかったことは、率直に認めるべきでしょう。

さらに、NATOとネオナチ政権はロシア軍の配置を正確に把握しており、ベルゴロド州からドンバスに至るまでの地域での奇襲攻撃は、自殺行為に等しいと理解していたはずで、クルスク州は正規部隊の配備が少なく、ロシア国防省警備隊「アフマト」、特にチェチェン出身の部隊が主に守備していましたが、彼らの任務は低レベルの侵入を防止することであり、正規軍との交戦は想定されていませんでした。

「アフマト」は破壊作業員や潜入者の迅速な排除を主な任務としており、FSB 国境警備隊と協力して、この任務を非常に効果的に遂行してきました。しかし、キエフ政権は「アフマト」がチェチェン人で構成されていることを利用し、ロシア内部での分裂を引き起こそうとしました。この試みは一時的なものでしたが、最終的には「アフマト」が想定外の強力な敵軍と対峙していたことが明らかになり、この作戦は短命に終わりました。しかし、ネオナチ政権にとって重要なのは、こうした「PR 上の勝利」だけなのです。

次に取り上げるべきは、「たった 1000 人のウクライナ兵が 1000 平方キロメートルのロシア領土を奪い取った」という愚かな神話です。実際には、このような攻撃を行うには 1 万人から 2 万人の兵士が必要であり、これらの部隊は NATO の ISR(情報、監視、偵察)資産によって直接支援されていました。ロシア側には、局地的な情報や戦術 ISR にいくつかの誤りがあったかもしれませんが、現実にはこの侵入を阻止するための正規部隊は配置されていませんでした。

また、Yelets-Kursk-Dykanka 天然ガスパイプラインの存在により、この地域には触れないという暗黙の合意があったのも事実です。しかし、ネオナチ政権が再び信頼できないことを証明した以上、この状況はハンガリーやスロバキアなどのガス供給を危機に晒し、キエフ政権との関係が一層悪化するでしょう。

それでも、米国と NATO がこの攻撃を支持する理由は明確です。残されたロシアの天然ガス供給

をヨーロッパから切断し、高価なアメリカ製 LNG を複数の国々に購入させることが彼らの利益に直結するからです。さらに、エネルギーインフラを脅かすだけでなく、ネオナチ政権の部隊は民間人を攻撃し、恐ろしい戦争犯罪を犯しました。しかし、クレムリンが正規軍を投入すると、侵入者は厳しい現実と直面しました。

ロシア軍が交戦を開始すると、ソビエト時代の装甲車両も NATO 供給の装甲車両も遠距離から撃墜され、さらにはモスクワ側の外国人ボランティアがキエフ政権軍の抑圧に加わりました。これらの事実は、クルスク侵攻がドンバスから注意をそらすための絶望的な試みであったことを示しています。ロシア軍はこの地域で前進を続けており、長距離攻撃システムが NATO 供給の防空システムやキエフ政権の残存空軍を壊滅させています。

そのため、クルスク州での冒険はほとんど何も成果を上げることができず、貴重な予備軍の損失だけが残りました。それでも、ウクライナ人は「PR 上の勝利」のために命を犠牲にし続けています。

<https://x.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1823600857923117547?s=09>

## ⑦ウクライナ、クルスク州で化学兵器を使用(2024年8月14日)

化学兵器の使用は国際法違反。

日本は中国で毒ガス兵器や細菌兵器を使用したか、その被害は甚大で後遺症は深刻。今も遺棄した毒ガス兵器に中国人は苦しめられている。

これを民間人に使用した罪は重い。ウクライナはますます邪悪になっている。



<https://x.com/D9bf0NRDYrL21Ba/status/1823216055113711786?s=09>

## ⑧ブチャの真実についての証言(2024年8月14日)

フランス人ジャーナリストは、ウクライナ軍によるブチャ虐殺の演出を目撃し、死体がトラックから降ろされ、メディアがロシアを非難するために配置されたと主張している。彼の証拠は国連安全保障理事会で発表された。誰が驚いているのか？

<https://x.com/i/status/1823401529170358723>



<https://x.com/KimDotcom/status/1823401529170358723?s=09>

※安齋注:『ウクライナ戦争論』に書いた通りです。

## ⑨クルスクでのウクライナ軍捕虜(2024年8月14日)

クルスク地域での主な攻撃作戦は、集落に侵入し、主力が到着するまで待機する巡回攻撃部隊によって実行される。この戦略により、ウクライナ軍は攻勢の初日に国境地帯で橋頭堡を確保することができたが、その後ロシア軍が防衛を強化したことで、効果を失っている。

これらの攻撃部隊はロシアのドローンやミサイルによって大部分が壊滅され、ウクライナ側の損失は増大している。また、ウクライナの兵士が次々と降伏している。

<https://x.com/i/status/1823614093380768060>



<https://x.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1823614093380768060?s=09>



## ⑩IAEA の報告書でゼレンスキー体制による原発火災原因のデマが明らかに(2024年8月13日)

ウクライナのゼレンスキー体制はロシア西部ザポロジエ原発(ザポリージャ原発)で起こった火災について、ロシア側が古いタイヤを燃やしているとの情報を拡散しているが、現場を調査した IAEA(国際原子力機関)職員らの報告書によると、この発言に根拠は全くない。

以下、これまでに入っている情報のまとめ。

火災が冷却炉の土台付近で発生したとは考えにくい(IAEA 報告書)

損傷は冷却炉の上部に集中している(IAEA 報告書)

黒煙はプラスチック部品の燃焼により発生、コンクリート部分の損傷が確認(IAEA 報告書)

ドローン攻撃により発生した火災で冷却塔内のプラスチック部品(蒸気のセパレーター)が燃えたことで黒煙が立ち上った(原発所長が IAEA 職員らに行った説明)

「車のタイヤ」や「ドローン」などの残骸は確認されなかった(IAEA 報告書)

西側メディアはロシアが原発で「古いタイヤを大量に燃やしている」、「死体を燃やしている」、「燃料に火をつけている」などと報じているものの、原発所長によると、現場でそうした残骸は確認されていないという。

ウクライナ当局は今回の事件について、「ロシア側が冷却塔内で古いタイヤを大量に燃やしている」、「ロシア側の扇動である」と国際社会に向かって無実を主張しているものの、原発に駐在する IAEA の専門家らは証言の中で、夕方に何度か爆発音が鳴り響いた後、発電所北西部の冷却塔から黒煙が上がっているのを確認したと指摘している。ロシア側はドニエプル川を挟んだ対岸のニーコポリ(ウクライナ領)から 2 度にわたってドローン攻撃を受けたと主張している。

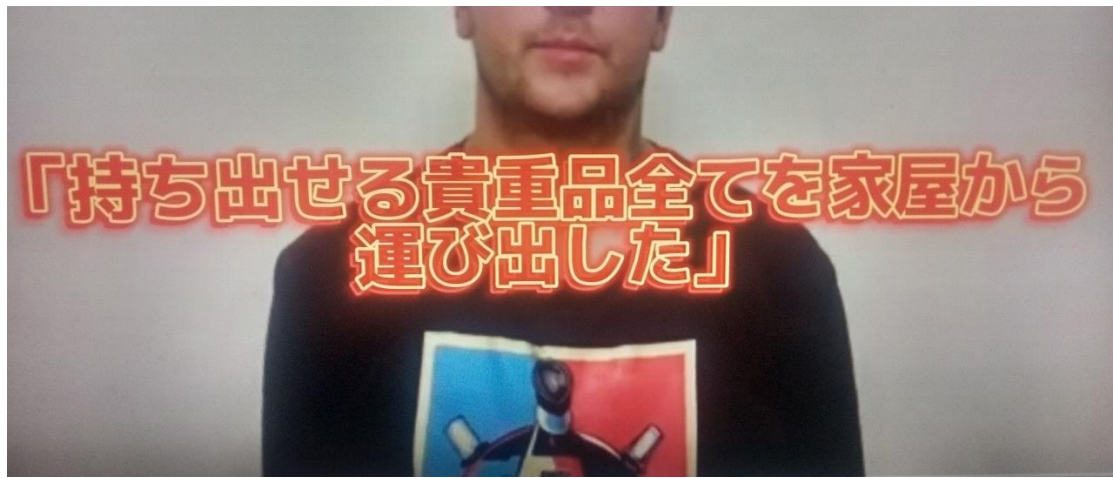


<https://sputniknews.jp/20240813/iaea-18956861.html#pv=g%3D18956861%2Fp%3D18091100>

## ⑪【Russia News】8/14 時事ネタ水曜版です 🍷!!(ニキータ、2024年8月14日)

※安齋注:クルスク問題についての必見映像です。

<https://youtu.be/C9u5w2A0CEU>



クルスクでのウクライナ軍捕虜の証言

<https://www.youtube.com/watch?v=C9u5w2A0CEU>